

エスプレッソ

赤谷慶子

霜月に母百二歳の誕生日を迎ふ。獨逸在住の妹母を祝はむがために今週末日す。母は昨年春に誤嚥性肺炎を患ひ、今年に入りては食事は何を供せむやと憂ふるの日々なり。例へばパン等は喉に突っかかり易ければ、汁とともに供せずばならず。加へて肉類は細かく切りたるものにする等工夫に工夫を重ねる必要あり。昨年霜月には中華膳を選みて配膳頼み、親戚八名と食事會を催しき。今年は母にとりて負擔の大きな食事會せず、柔らかな菓子類を食ふ午後の茶會にする事となりたり。

母より教はりて料理に巧みなる妹はテイラミスとマンゴープディングを作らむと宣言すれど、拘りのマスカルポーネチーズ日本には入手不可と知り、獨逸のアマゾンより買ひて郵送せり。テイラミスにはエスプレッソを混ぜなむと妹より聯絡ありて、いづれの機械入手すべきか悩みたり。

エスプレッソは伊太利亞發祥の特殊方法にて抽出せられし珈琲を指す。歐州にては既に廣く知られたれど、日本においてはこの十年やうやく廣く飲まるるが如くなりぬ。深煎りに濃厚なれど、沸騰水を加壓して濾すがゆゑに特殊なる機械必要なり。知識ある友人たちに聞き、加へてインターネットにて檢索せしかども、その機械は數萬圓のものより數十萬圓の贅澤品に及ぶ。獨逸のミーレ社の機械は五十萬圓もす。

百科事典によらばエスプレッソは「常の湯飲み半分ほどのデミタスとも呼ばれる (deni は半分、tasse はカップを意味する佛蘭西語) カップにて供せらる。常の一杯の量は三〇ccより四〇cc程度にて、伊太利亞にては砂糖入れ飲むが常なり。

伊太利亞、佛蘭西につはもつとも頻繁に飲まるる珈琲にて、單に「珈琲」といへばエスプレッソの事を指す。特徴的なる抽出により、抽出時間も短き事より、豆に含まるるカフェイン茶素の含有量はドリッップ用の焙煎にはし少なく一杯の量の少なきため一杯当たりの茶素含有量もエスプレッソの方少なし。

結果我はネスレ社販賣のネスプレッソ一番使ひやすしと斷ずるに至り、銀座三越まで赴き買ひき。仕様書讀みつつ作れど、いと濃厚にて旨し。エスプレッソテイラミス作る時使用するのみならず、美味なる珈琲を自宅にて楽しむ事になりき。

(令和六年十一月四日受附)